

2024年3月期 決算短信(日本基準)(連結)

2024年5月10日

上場会社名 宝ホールディングス株式会社
 コード番号 2531 URL <https://www.takara.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木村 睦
 問合せ先責任者 (役職名) 広報・IR部長 (氏名) 宇佐美 昌和

TEL 075-241-5124

定時株主総会開催予定日 2024年6月27日 配当支払開始予定日 2024年6月28日

有価証券報告書提出予定日 2024年6月27日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期の連結業績(2023年4月1日～2024年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期	339,372	3.2	22,242	41.4	23,336	39.7	16,176	23.7
2023年3月期	350,665	16.5	37,945	12.5	38,706	10.5	21,206	2.1

(注) 包括利益 2024年3月期 37,666百万円 (8.8%) 2023年3月期 41,278百万円 (3.2%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年3月期	82.09		7.5	5.6	6.6
2023年3月期	107.26		11.0	10.2	10.8

(参考) 持分法投資損益 2024年3月期 62百万円 2023年3月期 49百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期	437,468	280,465	52.3	1,171.10
2023年3月期	399,174	255,318	51.1	1,031.60

(参考) 自己資本 2024年3月期 228,665百万円 2023年3月期 203,951百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年3月期	29,178	19,993	13,448	90,184
2023年3月期	45,478	10,474	22,215	91,785

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2023年3月期				38.00	38.00	7,512	35.4	3.9
2024年3月期				29.00	29.00	5,662	35.3	2.6
2025年3月期(予想)				31.00	31.00		35.2	

(注) 2024年3月期における1株当たり期末配当金については、27円から29円に変更しております。本日(2024年5月10日)公表いたしました「剰余金の配当に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	171,000	4.8	10,400	16.6	10,800	17.1	8,600	6.9	44.04
通期	362,000	6.7	25,700	15.5	26,300	12.7	17,200	6.3	88.09

注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年3月期	197,252,043 株	2023年3月期	199,699,743 株
2024年3月期	1,995,688 株	2023年3月期	1,995,612 株
2024年3月期	197,052,118 株	2023年3月期	197,704,141 株

期末自己株式数

期中平均株式数

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 経営成績等の概況(4) 今後の見通し」をご覧ください。なお、連結業績予想の詳細及びセグメント別の業績予想につきましては、「決算短信補足資料」PAGE10/15～13/15に掲載しております。

(決算説明会内容の入手方法)

当社は2024年5月14日(火)に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、説明会終了後遅滞なく当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	4
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	5
(4) 今後の見通し	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
連結損益計算書	8
連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(セグメント情報)	13
(1株当たり情報)	14
(重要な後発事象)	15

○ 決算短信補足資料

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における世界経済は、米国では雇用者数の増加や実質賃金の上昇などを背景として消費が増加するなど景気は堅調に推移いたしました。欧州では、金融引締めを受けて消費者マインドが悪化したことなどから景気に弱さが見られました。日本経済は、原材料価格の上昇などの影響を受けたものの、コロナ禍による社会経済活動の制約が解消に向かうなか、景気は緩やかな回復基調が続きましたが、世界的な金融引締めや中国の不動産市場の停滞の影響が懸念されるなど、先行きは不透明な状況が続いております。

このような経済状況のもと、当社グループは、会社創立100周年となる2025年に向けた長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100th」において、「Smiles in Life～笑顔は人生の宝～」をVisionとして掲げ、おいしさを追求する技術と革新的なバイオ技術によって、和酒・日本食とライフサイエンスにおける多様な価値を安全・安心に提供する企業グループとして、世界中の暮らしを、命を、人生を、笑顔で満たすために挑戦し続けております。

また、「TaKaRa Group Challenge for the 100th」の総仕上げに向けて「宝グループ中期経営計画2025」をスタートし、「成長・強化領域への投資を加速させ、企業価値を高める3年間」を経営方針として、社会課題の解決に資するバリューチェーンを強化しながら商品・サービスを通じた社会課題の解決と、長期的かつ持続的に成長原資を生み出す「稼ぐ力」の向上を統合した経営を推進いたしました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高339,372百万円（前期比3.2%減）、売上総利益113,933百万円（同5.0%減）、販売費及び一般管理費91,691百万円（同11.8%増）、営業利益22,242百万円（同41.4%減）、経常利益23,336百万円（同39.7%減）、親会社株主に帰属する当期純利益16,176百万円（同23.7%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

〔宝酒造〕

宝酒造は、食品メーカーとして安全・安心な商品の安定的な供給に最優先に取り組むとともに、消費者の潜在的なニーズを掘り起こし、これまでにない新たな酒質や付加価値を提供する新商品の開発や重点ブランドと位置づけている商品の育成に注力いたしました。また、原材料価格やエネルギー価格の高騰に対しては、全社一体となったコストダウンや効率化に取り組むとともに、商品価格の改定による利益率の改善に取り組みしました。

当セグメントのカテゴリー別の売上状況などは次のとおりであります。

焼酎では、甲類焼酎の大容量商品などが減少しましたので、減収となりました。清酒では、“松竹梅「豪快」”や“松竹梅「昂」”は増加しましたが、“松竹梅「天」”などが減少しましたので、減収となりました。ソフトアルコール飲料では、重点ブランドと位置づけている“タカラ「焼酎ハイボール」”が引き続き増加し、“タカラ「辛口ゼロボール」”も増加しましたので、増収となりました。調味料では、本みりんなどの酒類調味料が増加し、食品調味料も増加しましたので、増収となりました。原料用アルコール等も増収となりました。

以上の結果、宝酒造の売上高は123,786百万円（前期比0.7%増）となりました。売上原価は92,057百万円（同1.7%減）となり、売上総利益は31,728百万円（同8.4%増）となりました。販売費及び一般管理費は、戦略的に使用した広告宣伝費などが増加し26,225百万円（同7.5%増）となりましたので、営業利益は5,503百万円（同12.5%増）となりました。

〔宝酒造インターナショナルグループ〕

宝酒造インターナショナルグループは、日本からの酒類の輸出や海外各地で酒類の製造・販売を行う海外酒類事業と海外の日本食レストランや小売店などに日本食材などを販売する海外日本食材卸事業を展開しております。

当セグメントの売上状況などは次のとおりであります。

海外酒類事業では、宝酒造との協業を推進し、現地ニーズをとらえた米国限定の缶チューハイ“TaKaRa CHU-HI”や、スパークリング日本酒“松竹梅白壁蔵「霽」〈NIGORI〉・〈CRISP〉”を海外専用商品として新発売するなど輸出の拡大に取り組みしました。ウイスキーはプレミアムバーボン“Blanton's”が引き続き好調に推移いたしました。また、清酒など和酒の売上も増加しましたので、海外酒類事業は増収となりました。海外日本食材卸事業では、米国での拠点の拡大に注力するとともに、販売チャネルの多角化の推進や取扱商品の拡充などに取り組みしました。新たにグループに迎え入れた企業の業績の上乗せがあったことや、供給体制の整備にも取り組んだこと

などにより、海外日本食材卸事業も増収となりました。

以上の結果、宝酒造インターナショナルグループの売上高は160,427百万円（前期比16.7%増）となりました。売上原価は108,711百万円（同14.3%増）となり、売上総利益は51,715百万円（同22.0%増）となりました。販売費及び一般管理費は、人件費や倉庫の賃借料などが増加し39,423百万円（同24.9%増）となりましたので、営業利益は12,291百万円（同13.6%増）となりました。

〔タカラバイオグループ〕

タカラバイオグループは、バイオテクノロジーを利用する研究開発活動がますます広がりを見せる中、こうした研究開発活動を支援する試薬・機器を開発し、世界中のバイオ研究者に提供する事業を展開しております。また、近年、製薬企業などで開発が盛んな再生・細胞医療・遺伝子治療の開発・製造を支援するCDMO事業を展開しております。CDMOとは医薬品の製法開発から製造までの工程を受託する事業を指し、タカラバイオグループでは、遺伝子治療薬等の分野に注力しております。その他、遺伝子医療事業では、遺伝子治療製品製造補助剤の製造・販売、新規モダリティ（治療法）の創出、臨床開発プロジェクトを進め、独自のバイオ創薬基盤技術の価値の最大化に取り組んでおります。

当セグメントの売上状況は、新型コロナウイルス感染症の法令上の位置づけの変更による検査関連製品の販売減少、ライフサイエンス研究市場の低迷等により、減少いたしました。

以上の結果、タカラバイオグループの売上高は43,505百万円（前期比44.3%減）となりました。売上原価は16,597百万円（同50.3%減）となり、売上総利益は26,908百万円（同39.9%減）となりました。販売費及び一般管理費は、研究開発費などが減少し23,905百万円（同1.3%減）となりましたので、営業利益は3,003百万円（同85.4%減）となりました。

〔その他〕

その他のセグメントは、貨物運送事業、ワイン輸入販売、不動産賃貸事業などであります。当セグメントの売上高は、ワイン輸入販売は増加しましたが、貨物運送事業などが減少したもので30,271百万円（前期比2.2%減）となりました。売上原価は26,011百万円（同2.8%減）となり、売上総利益は4,260百万円（同1.9%増）となりました。販売費及び一般管理費は1,897百万円（同0.6%増）となりましたので、営業利益は2,363百万円（同3.0%増）となりました。

品種別販売実績

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	対前年 増減率
品種	金額 (百万円)	金額 (百万円)	(%)
宝酒造			
焼酎	36,597	34,324	△6.2
清酒	12,145	11,548	△4.9
ソフトアルコール飲料	40,069	42,290	5.5
その他酒類	5,328	5,434	2.0
本みりん	9,477	9,562	0.9
その他調味料	8,780	9,223	5.0
原料用アルコール等	10,522	11,402	8.4
計	122,921	123,786	0.7
宝酒造インターナショナルグループ			
海外酒類	18,253	20,926	14.6
海外日本食材卸	121,354	141,816	16.9
その他	2,847	249	△91.3
グループ内連結消去	△4,972	△2,564	—
計	137,483	160,427	16.7
タカラバイオグループ			
試薬	65,925	31,961	△51.5
機器	1,375	892	△35.1
受託	8,200	7,997	△2.5
遺伝子医療	2,640	2,653	0.5
計	78,142	43,505	△44.3
報告セグメント計	338,547	327,720	△3.2
その他	30,950	30,271	△2.2
セグメント計	369,498	357,991	△3.1
事業セグメントに配分していない 収益及びセグメント間取引消去	△18,832	△18,619	—
合計	350,665	339,372	△3.2

(注) 販売金額には酒税を含んでおります。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当連結会計年度末における流動資産は245,213百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,700百万円増加いたしました。これは主に電子記録債権が1,175百万円、商品及び製品が4,022百万円、流動資産のその他が1,003百万円それぞれ増加し、現金及び預金が1,734百万円減少したことによるものであります。

固定資産は192,254百万円となり、前連結会計年度末に比べ34,593百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産が建設仮勘定の増加などにより15,991百万円、無形固定資産が2,404百万円、投資その他の資産が投資有価証券の時価評価の増加などにより16,197百万円それぞれ増加したことによるものであります。

以上の結果、総資産は437,468百万円となり、前連結会計年度末に比べ38,293百万円増加いたしました。

(負債)

当連結会計年度末における流動負債は80,657百万円となり、前連結会計年度末に比べ13,202百万円増加いたしました。これは主に短期借入金が5,089百万円、1年内償還予定の社債が5,000百万円、未払酒税が2,358百万円、未払費用が2,457百万円それぞれ増加し、流動負債のその他が2,713百万円減少したことによるものであります。

固定負債は76,345百万円となり、前連結会計年度末に比べ55百万円減少いたしました。これは主に社債が5,000百万円、長期借入金が4,763百万円それぞれ減少し、リース債務が2,917百万円、繰延税金負債が3,950百万円、固定負債のその他が3,030百万円それぞれ増加したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は157,003百万円となり、前連結会計年度末に比べ13,146百万円増加いたしました。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は280,465百万円となり、前連結会計年度末に比べ25,146百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が6,084百万円、その他有価証券評価差額金が9,537百万円、為替換算調整勘定が8,702百万円それぞれ増加したことによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は52.3%（前連結会計年度末は51.1%）となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益26,238百万円、減価償却費9,999百万円、投資有価証券売却益3,971百万円、未払酒税の増加2,358百万円、未払消費税等の減少3,031百万円、その他の流動負債の増加2,264百万円、法人税等の支払額8,459百万円などで29,178百万円の収入と前期に比べ16,299百万円の収入減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出4,592百万円、定期預金の払戻による収入5,530百万円、有形及び無形固定資産の取得による支出19,210百万円、投資有価証券の売却による収入4,874百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出5,441百万円などにより19,993百万円の支出と前期に比べ9,518百万円の支出増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得による支出2,999百万円、配当金の支払額7,503百万円、非支配株主への配当金の支払額2,004百万円などにより13,448百万円の支出と前期に比べ8,766百万円の支出減少となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物に係る換算差額を含めた当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より1,601百万円減少し、90,184百万円となりました。

(4) 今後の見通し

2025年3月期は、宝酒造では、為替影響によるコストアップをコストダウンや商品構成の改善で補い、増益となる見通しです。

宝酒造インターナショナルグループでは、海外での日本食の広がりを背景に、既存ルートの更なる深耕や、チャネルの多角化、拠点の拡大を進めることで、海外酒類事業、海外日本食材卸事業ともに増益となる見通しです。

タカラバイオグループでは、地域別のグローバル戦略による販売強化を進めることや、遺伝子細胞プロセッシングセンター2号棟の活用等をすすめることで、全てのカテゴリーにおいて増収とし、増益となる見通しです。

この結果、2025年3月期は、全ての主要セグメントで増益となる見通しです。

これらにより、翌連結会計年度（2025年3月期）の連結業績見通しは、売上高362,000百万円、営業利益25,700百万円、経常利益26,300百万円、親会社株主に帰属する当期純利益17,200百万円を予想しております。連結業績予想の詳細及びセグメント別の業績予想につきましては、「決算短信補足資料」内（PAGE10/15～13/15）に記載しております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、国際会計基準の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	96,820	95,085
受取手形及び売掛金	61,624	60,854
電子記録債権	8,093	9,268
商品及び製品	57,812	61,834
仕掛品	1,718	1,659
原材料及び貯蔵品	7,372	7,558
その他	8,765	9,768
貸倒引当金	△694	△817
流動資産合計	241,513	245,213
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	76,265	80,477
減価償却累計額	△39,487	△42,178
建物及び構築物 (純額)	36,778	38,298
機械装置及び運搬具	90,919	92,456
減価償却累計額	△75,654	△76,436
機械装置及び運搬具 (純額)	15,265	16,019
土地	20,861	21,665
リース資産	1,520	1,438
減価償却累計額	△731	△757
リース資産 (純額)	789	681
建設仮勘定	3,662	12,796
その他	28,496	35,749
減価償却累計額	△16,962	△20,328
その他 (純額)	11,533	15,420
有形固定資産合計	88,890	104,882
無形固定資産		
のれん	10,668	12,154
その他	5,262	6,181
無形固定資産合計	15,931	18,336
投資その他の資産		
投資有価証券	30,573	43,597
退職給付に係る資産	1,054	1,510
繰延税金資産	2,170	1,913
その他	19,103	22,078
貸倒引当金	△64	△62
投資その他の資産合計	52,838	69,036
固定資産合計	157,661	192,254
資産合計	399,174	437,468

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,775	22,315
短期借入金	4,919	10,008
1年内償還予定の社債	—	5,000
未払酒税	5,815	8,174
未払費用	6,368	8,826
未払法人税等	2,220	2,600
賞与引当金	3,380	3,470
その他	22,975	20,262
流動負債合計	67,454	80,657
固定負債		
社債	20,000	15,000
長期借入金	15,186	10,422
リース債務	4,452	7,369
繰延税金負債	4,855	8,806
退職給付に係る負債	8,925	8,735
その他	22,980	26,010
固定負債合計	76,401	76,345
負債合計	143,856	157,003
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	1,994	2,716
利益剰余金	163,825	169,909
自己株式	△1,682	△2,103
株主資本合計	177,363	183,749
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,974	22,511
繰延ヘッジ損益	286	3
為替換算調整勘定	13,686	22,389
退職給付に係る調整累計額	△359	12
その他の包括利益累計額合計	26,588	44,915
非支配株主持分	51,366	51,799
純資産合計	255,318	280,465
負債純資産合計	399,174	437,468

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
売上高	350,665	339,372
売上原価	230,723	225,438
売上総利益	119,941	113,933
販売費及び一般管理費	81,996	91,691
営業利益	37,945	22,242
営業外収益		
受取利息	265	457
受取配当金	800	948
その他	612	755
営業外収益合計	1,678	2,161
営業外費用		
支払利息	324	450
為替差損	222	—
訴訟損失引当金繰入額	—	114
その他	370	501
営業外費用合計	917	1,066
経常利益	38,706	23,336
特別利益		
投資有価証券売却益	674	3,971
受取保険金	678	—
その他	327	63
特別利益合計	1,681	4,034
特別損失		
固定資産除売却損	499	842
減損損失	—	207
その他	195	82
特別損失合計	694	1,132
税金等調整前当期純利益	39,692	26,238
法人税、住民税及び事業税	10,144	8,899
法人税等調整額	857	△426
法人税等合計	11,001	8,472
当期純利益	28,690	17,766
非支配株主に帰属する当期純利益	7,483	1,589
親会社株主に帰属する当期純利益	21,206	16,176

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
当期純利益	28,690	17,766
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	757	9,537
繰延ヘッジ損益	△125	△283
為替換算調整勘定	11,855	10,281
退職給付に係る調整額	100	365
その他の包括利益合計	12,588	19,900
包括利益	41,278	37,666
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	31,351	34,503
非支配株主に係る包括利益	9,927	3,162

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	13,226	2,499	149,933	△1,682	163,976
当期変動額					
剰余金の配当			△7,315		△7,315
親会社株主に帰属する当期純利益			21,206		21,206
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		0		0	0
連結子会社株式の取得による持分の増減		△505			△505
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	△505	13,891	△0	13,386
当期末残高	13,226	1,994	163,825	△1,682	177,363

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	12,216	412	4,330	△515	16,443	44,135	224,555
当期変動額							
剰余金の配当							△7,315
親会社株主に帰属する当期純利益							21,206
自己株式の取得							△0
自己株式の処分							0
連結子会社株式の取得による持分の増減							△505
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	757	△125	9,355	156	10,144	7,231	17,375
当期変動額合計	757	△125	9,355	156	10,144	7,231	30,762
当期末残高	12,974	286	13,686	△359	26,588	51,366	255,318

当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位: 百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	13,226	1,994	163,825	△1,682	177,363
当期変動額					
剰余金の配当			△7,512		△7,512
親会社株主に帰属する当期純利益			16,176		16,176
自己株式の取得				△2,999	△2,999
自己株式の消却		△2,579		2,579	—
連結子会社株式の取得による持分の増減		722			722
利益剰余金から資本剰余金への振替		2,579	△2,579		—
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					
当期変動額合計	—	722	6,084	△420	6,386
当期末残高	13,226	2,716	169,909	△2,103	183,749

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	12,974	286	13,686	△359	26,588	51,366	255,318
当期変動額							
剰余金の配当							△7,512
親会社株主に帰属する当期純利益							16,176
自己株式の取得							△2,999
自己株式の消却							—
連結子会社株式の取得による持分の増減							722
利益剰余金から資本剰余金への振替							—
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	9,537	△283	8,702	371	18,327	432	18,760
当期変動額合計	9,537	△283	8,702	371	18,327	432	25,146
当期末残高	22,511	3	22,389	12	44,915	51,799	280,465

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	39,692	26,238
減価償却費	9,118	9,999
減損損失	—	207
のれん償却額	998	1,179
受取利息及び受取配当金	△1,066	△1,405
支払利息	324	450
受取保険金	△678	—
固定資産除売却損益 (△は益)	235	794
投資有価証券売却損益 (△は益)	△674	△3,971
売上債権の増減額 (△は増加)	2,634	1,994
棚卸資産の増減額 (△は増加)	8,969	982
仕入債務の増減額 (△は減少)	△252	△914
未払酒税の増減額 (△は減少)	△1,358	2,358
未払消費税等の増減額 (△は減少)	2,104	△3,031
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△1,261	2,264
その他	835	0
小計	59,621	37,147
利息及び配当金の受取額	1,053	1,380
利息の支払額	△340	△457
法人税等の支払額	△15,535	△8,459
保険金の受取額	678	—
補助金の返還額	—	△433
営業活動によるキャッシュ・フロー	45,478	29,178
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△23,167	△4,592
定期預金の払戻による収入	24,008	5,530
有形及び無形固定資産の取得による支出	△10,618	△19,210
投資有価証券の売却による収入	793	4,874
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,068	△5,441
補助金の受取額	32	463
補助金の返還額	—	△1,335
その他	△454	△282
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,474	△19,993
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△435	△262
長期借入れによる収入	6	466
長期借入金の返済による支出	△363	△105
社債の償還による支出	△10,000	—
自己株式の取得による支出	△0	△2,999
配当金の支払額	△7,305	△7,503
非支配株主への配当金の支払額	△1,579	△2,004
リース債務の返済による支出	△919	△1,036
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△1,551	—
その他	△67	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△22,215	△13,448
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,267	2,661
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	16,056	△1,601
現金及び現金同等物の期首残高	75,729	91,785
現金及び現金同等物の期末残高	91,785	90,184

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高経営意思決定機関が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、事業会社である宝酒造株式会社、宝酒造インターナショナル株式会社、タカラバイオ株式会社を中核企業とする各企業グループ及びその他で構成されており、当社は各事業会社を統括する持株会社であります。各事業会社は、各々取り扱う製品・商品やサービスについて国内あるいは海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。したがって、当社グループは、製品・商品やサービスの内容を基本としながらも、経営責任・業績評価の単位を重視し、「宝酒造」「宝酒造インターナショナルグループ」及び「タカラバイオグループ」の3つを報告セグメントとしております。

「宝酒造」は、主に国内における酒類・調味料の製造・販売を行っております。「宝酒造インターナショナルグループ」は、日本からの酒類の輸出、海外における酒類の製造・販売や日本食材卸事業を行っております。「タカラバイオグループ」は、試薬・機器事業とCDMO事業を通じ、バイオ創薬基盤技術開発を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成に用いた会計処理基準と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。また、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自2022年4月1日 至2023年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	宝酒造	宝酒造イン ターナシ ョナルグ ループ	タカラバイ オグルー プ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	122,116	137,256	78,139	337,512	13,152	350,665	—	350,665
セグメント間の内部売上高又は振替高	805	226	2	1,035	17,797	18,832	△18,832	—
計	122,921	137,483	78,142	338,547	30,950	369,498	△18,832	350,665
セグメント利益	4,890	10,821	20,541	36,252	2,293	38,546	△601	37,945
セグメント資産	89,979	121,348	129,202	340,530	18,849	359,380	39,794	399,174
その他の項目								
減価償却費	2,467	2,043	4,050	8,561	230	8,791	326	9,118
のれんの償却額	—	399	599	998	—	998	—	998
持分法適用会社への投資額	—	—	—	—	—	—	1,715	1,715
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	2,763	4,704	6,516	13,985	100	14,085	79	14,165

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貨物運送事業、ワイン輸入販売、不動産賃貸事業などであります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1)セグメント利益は、セグメント間取引消去57百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益△658百万円であります。

(2)セグメント資産は、事業セグメントに配分していない当社の資産64,793百万円、その他の調整額(主としてセグメント間取引消去)△24,999百万円であります。当社に係る資産は、余資運用資金や長期投資資金などあります。

(3)減価償却費は、主として当社において計上した減価償却費であります。

(4)持分法適用会社への投資額は、事業セグメントに配分していない持分法適用会社への投資額であります。

(5)有形固定資産及び無形固定資産の増加額は、主として当社において計上した増加額であります。

3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自2023年4月1日至2024年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	宝酒造	宝酒造イン ターナシヨ ナルグルー プ	タカラバイ オグループ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	122,964	160,082	43,504	326,551	12,821	339,372	—	339,372
セグメント間の内部売 上高又は振替高	822	345	1	1,168	17,450	18,619	△18,619	—
計	123,786	160,427	43,505	327,720	30,271	357,991	△18,619	339,372
セグメント利益	5,503	12,291	3,003	20,798	2,363	23,161	△919	22,242
セグメント資産	92,722	147,078	121,252	361,053	19,985	381,039	56,428	437,468
その他の項目								
減価償却費	2,586	2,618	4,279	9,485	225	9,710	288	9,999
のれんの償却額	—	539	640	1,179	—	1,179	—	1,179
持分法適用会社への投資額	—	—	—	—	—	—	1,777	1,777
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	4,108	6,624	10,960	21,692	123	21,816	99	21,915

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貨物運送事業、ワイン輸入販売、不動産賃貸事業などです。

2. 調整額の内容は以下のとおりです。

- (1) セグメント利益は、セグメント間取引消去49百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益△969百万円です。
- (2) セグメント資産は、事業セグメントに配分していない当社の資産77,728百万円、その他の調整額(主としてセグメント間取引消去) △21,299百万円です。当社に係る資産は、余資運用資金や長期投資資金などです。
- (3) 減価償却費は、主として当社において計上した減価償却費です。
- (4) 持分法適用会社への投資額は、事業セグメントに配分していない持分法適用会社への投資額です。
- (5) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額は、主として当社において計上した増加額です。

3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり純資産額	1,031.60円	1,171.10円
1株当たり当期純利益	107.26円	82.09円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	255,318	280,465
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	51,366	51,799
(うち非支配株主持分(百万円))	(51,366)	(51,799)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	203,951	228,665
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数(千株)	197,704	195,256

3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	21,206	16,176
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	21,206	16,176
普通株式の期中平均株式数 (千株)	197,704	197,052

(重要な後発事象)

該当事項はありません。